

令和5年8月

生徒の皆さん、お元気ですか。暑中お見舞い申し上げます。各家庭の様子は知る由もありませんが、学校では課外授業や夏季学習会が実施されているほか、図書室や自習室で多くの生徒が自習しています。グラウンドやテニスコート、体育館、弓道場、音楽室、武道場などでは部員たちが元気に練習しています。定時制の生徒も全国大会に向けて特訓しています。暑さが続きますが「今やっていることは意味がある」と自分に声をかけて乗り切りましょう。

夏休みは、校外でのボランティア活動もさかんです。今年のはべ100人を超える生徒が参加しています。恩田ふれあいセンターでの高齢者スマホ教室、クッキング教室。恩田小学校での学童保育（ニコニコおひさまクラブ）、自然観察、木工工作、高校生工作教室、認知症声掛け訓練、学童夏まつり。神原ふれあいセンターでの神原まつり。宇部空港グラウンドでの恩田校区夏祭り。ゆめタウン宇部での献血呼びかけや24時間テレビでの募金呼びかけ（JRC部）などなど。どこに出向いても、担当者の方から「中央高生はたくさん来てくれて、とてもうれしい」と言われます。地域社会に貢献するとともに、地域社会の中で育てていただいています。ありがとうございます。



高齢者スマホ教室



自然観察



夏祭り(魚釣り)



図書室で自習



学童保育



木工工作



夏祭り(ダーツ)



夏季課外授業

○ なぜ戦争は起こるのか、どうしたら戦争をなくせるのか

8月6日、9日は78年前に広島と長崎に原子爆弾が投下された日です。2発の爆弾で21万人以上が犠牲となりました。(1945年末までに広島で約14万人、長崎で約7万4千人)

北朝鮮の核開発やロシアのウクライナ侵攻により、核兵器使用の懸念が高まっています。第二次世界大戦の末期、アメリカが広島と長崎に原子力爆弾を投下したことに對して、アメリカ国内では「戦争を終結するためには必要だった」という意見もあります。日本国内でも、日本を守るためには核武装が必要だという声もあります。今年5月、G7広島サミットの開催に合わせて、ユースサミットが広島で開かれました。世界から19か国の若者が集まって核について議論したのです。「核の廃絶なんて無理」、「ドイツでは安全保障を理由に核兵器は必要だと言われている」など、核兵器を肯定する意見が出る中、曾祖父2人が被ばくした広島の高校生が問いかけました。

「広島の実態や被爆者の体験談も知った上で、核兵器が安全を保障してくれると思いますか？」

この言葉を聞いて、私は二つのことを思いました。

一つは、平和とは何かということです。誰かの犠牲の上に成り立つ平和を“平和”とみなしてしまっているの难道うか。本当の意味での“平和”ではないのではないか。全ての人々が安全に暮らせてこそ“平和”と呼べるのではないか。

もう一つは、知ることの大事さ、知らずに判断することの恐ろしさです。自分の狭い視野の中だけで考え判断し、それを正義と思って、全力で遂行することはとても危ういのではないか。みなさんはどう思いますか。

○ じっくり考える、常識にとらわれずに考える

先日、研修会で、山口大学国際総合科学部の小川仁志教授の講演を聞きました。メディアにもよく登場されている哲学者です。その小川教授が述べられていたことの中に、

「変な質問がイノベーションのきっかけになる」

「可能な限り視点を変えて、見えないものを見る努力をする」

「自分が持っている枠組み（常識）を超えて考える」などがありました。

その話を聞いてパッと思い出したのが笹井宏之さんです。スピッツの歌詞のような、とても意味の分からない（失礼）、シュールな短歌をよむ歌人です。例えばこんな歌です。

暮れなずむホームをふたりぼろぼろと音符のように歩きましたね

拾ったら手紙のようで開いたらあなたのようにもう見れませんか

どうですか。シュールでしょ。

今年になって生成 AI の話題が増えています。人間に取って代わるのではという脅威論も出てきています。小川教授は、生成 AI はあくまで演算装置であって知能ではないと言われました。生成 AI がいくらいいことを言っても、経験の裏付けがないから響いてこないとも。

人間は限りある命の中で、悩み続け、じっくり考え、表現する。これは生成 AI にはまねできないことです。さらに、人間が常識を超えて発想していけば、生成 AI はついてこれないのではないか。生成 AI と共存するこれからの時代の人間は、豊かな感性、ユニークな感性こそ最大の武器になるのではないのでしょうか。19 世紀に写真が発明されて、印象派※が生まれたように。21 世紀に生成 AI が発明されて、人間の感性が見直される。そうであるならば、笹井宏之さんの詩を読み直す価値はありそうです。

※印象派：19世紀西欧の芸術運動。カメラが発明され写實的に描くことに意味を見失っていた画家たちに、日本の浮世絵は勇気を与えたのです。「こんな表現があったのか」と。

○ 校庭紹介（8月）



五角堂のひまわりが見事な花を咲かせています。



環境委員の生徒や先生方が当番で水やりをしてくれています。